

地下鉄サリン事件 (平成7〈1995〉年3月20日)

1 事件に至る経緯

- 平成5(1993)年, 麻原彰晃が教団幹部に対して, 殺傷能力の高いサリンの研究・開発を指示(その後, 教団はサリンの生成に成功)



教団が建設した, サリン生成が可能なプラント(時事)

- 平成7(1995)年1月以降, メディアが, 教団が関与した事件について, 教団による犯行の可能性や事件捜査の進展状況などを報道
 - ➔ これら報道を受けて, 麻原らが「**教団に強制捜査が入るのではないか**」などと危機感

麻原は, 間近に迫った教団に対する強制捜査を阻止するために, **東京の地下鉄電車内にサリンを散布することを指示**

2 事件のじゃっ起

- 教団幹部ら5人が, 朝の通勤時間帯, 営団地下鉄(現:東京メトロ)霞ヶ関駅を通過する3つの路線(日比谷線, 千代田線, 丸ノ内線)を走る5つの車両において, 先端をとがらせた傘でサリン

入りビニール袋を突き刺し、サリンを散布

- サリン中毒により乗客ら**13人を殺害**、**5,800人以上(※)**がサリン中毒症の傷害

※ オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律に基づき給付金の支給を受けた被害者数



営団地下鉄・築地駅から地上に運び出され、救急車などに収容される乗客(朝日新聞社／時事通信フォト)